

第80回 簿記実務検定第1級試験問題

原価計算

(制限時間 1時間30分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

製 品	A 組 製 品	B 組 製 品	仕 損 品
素 材	建 物	建物減価償却累計額	退 職 給 付 費 用
減 価 償 却 費	棚 卸 減 耗 費	仕 損 費	製 造
A 組 製 造	B 組 製 造	第 / 工 程 製 造	第 2 工 程 製 造
組 間 接 費	本 社	工 場	

a. 等級別総合原価計算を採用している青森製作所は、工場の従業員に対する退職給付費用について、月末に当月分の消費高 ¥380,000 を計上した。

b. 個別原価計算を採用している福島製作所の月末における素材の实地棚卸数量は425個であった。よって、次の素材に関する当月の資料にもとづいて、素材勘定の残高を修正した。ただし、消費単価の計算は総平均法によっている。

前月繰越高	400個	@¥2,400	¥ 960,000
当月仕入高	1,600〃	〃 2,600	¥4,160,000
当月消費数量	1,550〃		

c. 組別総合原価計算を採用している茨城工業株式会社は、組間接費を各組の組直接費を基準としてA組とB組に配賦した。なお、当月の製造費用は次のとおりである。

	A組直接費	B組直接費	組間接費
材 料 費	¥ 600,000	¥ 500,000	¥ 70,000
労 務 費	¥8,300,000	¥5,400,000	¥ 960,000
経 費	¥ 400,000	¥ 300,000	¥1,760,000

d. 個別原価計算を採用している神奈川工業株式会社は、補修指図書#5-ノに集計された製造原価 ¥230,000 を仕損費勘定に計上していたが、本日、補修が完了したので製造指図書#5に賦課した。

e. 工程別総合原価計算を採用している岩手工業株式会社は、月末に工程別総合原価計算表を次のとおり作成し、各工程の完成品原価を計上した。

工程別総合原価計算表 (一部)

平成○年6月分

摘 要	第1工程	第2工程	合 計
工程個別費 素材費	1,870,000	—	1,870,000
前工程費	—	3,150,000	3,150,000
工程完成品原価	3,150,000	4,200,000	7,350,000
工程完成品数量	2,500個	2,000個	
工 程 単 価	¥ 1,260	¥ 2,100	

f. 工場会計が独立している群馬製作所の本社は、決算にさいし、建物の減価償却費 ¥954,000 を計上した。ただし、このうち ¥450,000 は工場の建物に対するものであり、建物減価償却累計額勘定は本社のみに設けてある。(本社の仕訳)

2

栃木製作所は、単純総合原価計算を採用し、A製品を製造している。下記の資料と製造勘定によって、

(1) 単純総合原価計算表を完成しなさい。

(2) 製造勘定の電力料（アの金額）を求めなさい。

ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

ii 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

資 料		製 造	
a. 生産データ		前月繰越 ()	製 品 ()
月初仕掛品 500個 (加工進捗度40%)		素 材 ()	次月繰越 ()
当月投入 2,500個		工場消耗品 561,000	
合 計 3,000個		賃 金 1,750,000	
月末仕掛品 400個 (加工進捗度60%)		従業員賞与手当 513,000	
完 成 品 2,600個		健康保険料 70,000	
b. 月初仕掛品原価		減価償却費 160,000	
素 材 費 ¥1,150,000		電 力 料 (ア)	
加 工 費 ¥ 208,000		雑 費 12,000	
c. 当月製造費用		()	()
素 材 費 ¥6,350,000			
加 工 費 ¥3,200,000			

3

次の各問いに答えなさい。

(1) 次の文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

実際原価計算は、実際原価によって製品の製造原価を計算することにより、主として ア の作成に必要な資料を提供することを目的としている。これに対して標準原価計算は、標準原価によって製品の製造原価を計算し、標準原価と実際原価との差額を分析することにより、むだをはぶき、生産能率を高め、原価の発生を抑えるといった イ に役立つ資料を提供することを目的としている。

1. 製造指図書 2. 部門別計算 3. 原 価 管 理 4. 財 務 諸 表

(2) 宮城製作所における下記の勘定記録と資料により、次の金額を求めなさい。ただし、会計期間と原価計算期間は一致しているものとする。

a. 賃金の消費高 b. 製造間接費の実際発生額 c. 売 上 原 価

製 造		売 上 原 価	
前期繰越 715,000	製 品 ()	製 品 ()	製造間接費配賦差異 20,000
素 材 ()	次期繰越 570,000	()	損 益 ()
賃 金 3,910,000			()
外注加工賃 ()			
製造間接費 1,955,000			
()	()		

資 料			
① 素 材	期首棚卸高 ¥546,000	当期仕入高 ¥2,402,000	
	期末棚卸高 ¥482,000		
② 工場消耗品	期首棚卸高 ¥ 37,000	当期仕入高 ¥ 256,000	
	期末棚卸高 ¥ 41,000		
③ 賃 金	前期未払高 ¥853,000	当期支払高 ¥4,563,000	
	当期未払高 ¥795,000		
④ 給 料	当期消費高 ¥620,000		
⑤ 外注加工賃	前期前払高 ¥ 87,000	当期支払高 ¥ 345,000	
	当期前払高 ¥ 79,000		
⑥ 電 力 料	当期支払高 ¥165,000	当期測定高 ¥ 174,000	
⑦ 減価償却費	当期消費高 ¥294,000		
⑧ 製 品	期首棚卸高 ¥680,000	期末棚卸高 ¥ 520,000	

(3) 標準原価計算を採用している埼玉製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。

a. 完成品の標準原価 b. 材料消費価格差異 c. 作業時間差異

ただし、i 直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。

ii 解答欄の()のなかに不利差異の場合は(不利)、有利差異の場合は(有利)と記入すること。

資 料

① 標準原価カード(一部)

S 製品 標準原価カード			
	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	4kg	¥ 500	¥2,000
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	3時間	¥ 900	¥2,700
製品/個あたりの標準原価			<u>¥8,300</u>

② 生産データ

月初仕掛品	300個 (加工進捗度40%)
当月投入	<u>740個</u>
合計	<u>1,040個</u>
月末仕掛品	<u>200個</u> (加工進捗度50%)
完成品	<u>840個</u>

③ 実際直接材料費 ¥1,470,000

実際消費数量 3,000kg

実際単価 ¥490

④ 実際直接労務費 ¥2,142,000

実際直接作業時間 2,520時間

実際賃率 ¥850

(4) 秋田製作所は、B製品を/個あたり ¥3,000 で販売している。この製品を/、500個製造・販売したときの直接原価計算による損益計算書は下記のとおりである。よって、次の金額または数量を求めなさい。

a. 販売数量が/、800個のときの営業利益 b. 損益分岐点の販売数量

c. 目標営業利益 ¥756,000 を達成するための売上高

秋田製作所 損益計算書		(単位:円)
I 売上高		4,500,000
II 変動売上原価		<u>1,980,000</u>
変動製造マージン		2,520,000
III 変動販売費		<u>630,000</u>
貢献利益		1,890,000
IV 固定費		
1. 固定製造間接費	792,000	
2. 固定販売費及び一般管理費	<u>594,000</u>	<u>1,386,000</u>
営業利益		<u>504,000</u>

(5) 個別原価計算を採用している山形製作所は、製造間接費について公式法変動予算により予算を設定し、予定配賦をおこなっている。次の資料から当月の実際操業度における予算額を求めなさい。

資 料

a. 月間の基準操業度(直接作業時間) 2,400時間

b. 月間の製造間接費予算額 ¥3,600,000

変動費率 ¥600

固定費予算額 ¥2,160,000

c. 当月の実際直接作業時間 2,280時間

4

個別原価計算を採用している千葉製作所の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 6月//日と30日①の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 消費賃金勘定・第1製造部門費勘定・製造部門費配賦差異勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。
なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 部門費振替表を直接配賦法によって完成しなさい。
- (4) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。
- (5) 月末仕掛品原価を求めなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	200個	@¥2,800	¥ 560,000
工場消耗品	300〃	〃 〃 120	¥ 36,000
仕 掛 品（製造指図書#1）			¥1,640,000（原価計算表に記入済み）
製造部門費配賦差異			¥ 9,000（貸方）

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,150 の予定賃率を用いている。
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額（予算額）	¥7,770,000	¥3,960,000
年間予定直接作業時間（基準操業度）	22,200時間	19,800時間

- v 製造間接費勘定を設けている。

取 引

6月 5日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	600個	@¥2,900	¥1,740,000
工場消耗品	1,200〃	〃 〃 120	¥ 144,000

//日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材500個を消費して製造を開始した。

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額	¥4,150,000
うち、控除額	所 得 税 ¥332,000 健康保険料 ¥166,000

- 30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は250個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）
- ② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。

製造指図書#1 2,000時間 製造指図書#2 1,400時間 間接作業 200時間

- ③ 健康保険料の事業主負担分 ¥166,000 を計上した。
- ④ 当月の製造経費消費高を次のとおり計上した。
電 力 料 ¥159,000 保 険 料 ¥42,000
減価償却費 209,000
- ⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

		第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1	800時間	1,200時間
	製造指図書#2	1,000時間	400時間

- ⑥ 製造間接費を次のとおり各部門に配分した。
第1製造部門 ¥464,000 第2製造部門 ¥251,000
動力部門 169,000 修繕部門 72,000
- ⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門
動力部門費	kW数×運転時間数	10kW×450時間	8kW×250時間
修繕部門費	修 繕 回 数	4回	2回

- ⑧ A製品（製造指図書#1）50個が完成した。
- ⑨ 当月の賃金実際消費高 ¥4,176,000 を計上した。
- ⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。
- ⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

第80回 簿記実務検定 1級 原価計算 [答案用紙]

1

	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

1	
得点	

2	
得点	

3	
得点	

4	
得点	

総得点	
-----	--

試験場校	受験番号

2

(1)

単純総合原価計算表

平成○年6月分

摘 要	素 材 費	加 工 費	合 計
材 料 費			
労 務 費			
経 費			
計			
月初仕掛品原価	1,150,000	208,000	1,358,000
計			
月末仕掛品原価			
完 成 品 原 価			
完 成 品 数 量	個	個	個
製 品 単 価	¥	¥	¥

(2)

製造勘定の電力料 ¥
(ア の 金 額)

2
得点

3

(1)

ア	イ

(2)

a	賃金の消費高	¥
b	製造間接費の実際発生額	¥
c	売上原価	¥

(3)

a	完成品の標準原価	¥
b	材料消費価格差異	¥ ()
c	作業時間差異	¥ ()

(4)

a	販売数量が1,800個のときの営業利益	¥
b	損益分岐点の販売数量	個
c	目標営業利益¥756,000を達成するための売上高	¥

(5)

当月の実際操業度における予算額	¥
-----------------	---

3 得点	
---------	--

4

(1)

	借 方	貸 方
6月/ /日		
30日①		

(2)

消 費 賃 金
第 / 製 造 部 門 費
製 造 部 門 費 配 賦 差 異
6/1 前 月 繰 越 9,000

部 門 費 振 替 表

(3) 直接配賦法

平成○年6月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 / 部 門	第 2 部 門	動 力 部 門	修 繕 部 門
部門費合計						
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修 繕 回 数					
配賦額合計						
製造部門費合計						

(4) 製造指図書#/

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部門	時 間	配賦率	金 額	摘 要	金 額
1,400,000	184,000	第1	160	350	56,000	直接材料費	
		第1				直接労務費	
		第2				製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	個
						製品単価	¥

(5) 月末仕掛品原価 ¥

4

得点

第80回 簿記実務検定 1級 原価計算 (解答)

借 方		貸 方	
a	製 造 380,000	退職給付費用	380,000
b	棚卸減耗費 64,000	素 材	64,000
c	A 組 製 造 1,674,000 B 組 製 造 1,116,000	組 間 接 費	2,790,000
d	製 造 230,000	仕 損 費	230,000
e	第 2 工 程 製 造 3,150,000 製 品 4,200,000	第 1 工 程 製 造 第 2 工 程 製 造	3,150,000 4,200,000
f	減 価 償 却 費 工 場 504,000 450,000	建物減価償却累計額	954,000

2

(1)

単純総合原価計算表
平成〇年6月分

摘 要	素 材 費	加 工 費	合 計
材 料 費	6,350,000	561,000	6,911,000
労 務 費	—	2,333,000	2,333,000
経 費	—	306,000	306,000
計	6,350,000	3,200,000	9,550,000
月初仕掛品原価	1,150,000	208,000	1,358,000
計	7,500,000	3,408,000	10,908,000
月末仕掛品原価	1,000,000	288,000	1,288,000
完 成 品 原 価	6,500,000	3,120,000	9,620,000
完 成 品 数 量	2,600個	2,600個	2,600個
製 品 単 価	¥ 2,500	¥ 1,200	¥ 3,700

(2)

製造勘定の電力料 (7 の 金 額)	¥ 134,000
-----------------------	-----------

3

ア	イ
4	3

(1)

4

	借方	貸方
6月//日	製造 1,430,000	素材 1,430,000
30日①	製造間接費 150,000	工場消耗品 150,000

(1)

(2)

a	賃金の消費高	¥ 4,505,000
b	製造間接費の実際発生額	¥ 1,935,000
c	売上原価	¥ 8,969,000

(2)

	消費賃金	
6/30 賃金	4,176,000	6/30 諸口 4,140,000
		” 賃率差異 36,000
	4,176,000	4,176,000
6/30 製造間接費	464,000	6/30 製造部門費 630,000
” 諸口	165,000	
” 製造部門費配賦差異	1,000	
	630,000	630,000

(3)

a	完成品の標準原価	¥ 6,972,000
b	材料消費価格差異	¥ 30,000 (有利)
c	作業時間差異	¥ 54,000 (不利)

製造部門費配賦差異

6/30 第2製造部門費	7,000	6/1 前月繰越 9,000
” 次月繰越	3,000	30 第1製造部門費 1,000
	10,000	10,000

(4)

a	販売数量が/,800個のときの営業利益	¥ 882,000
b	損益分岐点の販売数量	1,100 個
c	目標営業利益¥756,000を達成するための売上高	¥ 5,100,000

(3) 直接配賦法

部門費振替表

平成〇年6月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門	補助部門
部門費合計		956,000	第1部門 464,000	第2部門 251,000
動力部門費	台数×運転時間数	169,000	117,000	52,000
修繕部門費	修繕回数	72,000	48,000	24,000
配賦額合計		241,000	165,000	76,000
製造部門費合計		956,000	629,000	327,000

(4) 製造指図書#/

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費	集計
1,400,000	184,000	56,000	摘要金額
	部門時間配賦率		
2,300,000	第1 160 350	280,000	直接材料費 1,400,000
2,484,000	第2 800 350	210,000	直接労務費 2,484,000
	第2 1,200 200	576,000	製造間接費 576,000
			製造原価 4,460,000
			完成品数量 50 個
			製品単価 ¥ 89,200
月末仕掛品原価	¥ 3,470,000		

(5)

当月の実際操業度における予算額	¥ 3,528,000
-----------------	-------------

(5)